

赤磐商工会エリアの地域動向調査

赤磐市の人口動態に基づく調査結果

令和6年1月1日と令和7年1月1日の赤磐市の人口と世帯数のデータに基づき、小規模事業者への影響を分析しました。

1. 人口の推移

区分	令和6年1月1日	令和7年1月1日	増減数	前年比
総人口	42,973 人	42,490 人	▲483 人	98.8%
男の人口	20,678 人	20,391 人	▲287 人	98.6%
女の人口	22,295 人	22,099 人	▲196 人	99.1%

考察

赤磐市の総人口は483人減少し、前年比98.8%となりました。この減少は、少子高齢化の進行、若年層の流出など、複数の要因が複雑に絡み合っていると考えられます。

地区	令和6年1月1日	令和7年1月1日	増減数	前年比(%)
山陽地区	24,328 人	24,071 人	▲257 人	98.9%
赤坂地区	3,745 人	3,634 人	▲111 人	97%
熊山地区	11,521 人	11,528 人	7 人	100.06%
吉井地区	3,379 人	3,257 人	▲122 人	96.4%

【考察】

人数ベースでは山陽地区は257名減少し、次いで、吉井地区が122名減、赤坂地区が111名減となりました。

一方、熊山地区は7名増加し、唯一前年比100.1%と増加しています。

2. 世帯数の推移

区分	令和 6 年 1 月 1 日	令和 7 年 1 月 1 日	増減数	前年比
総世帯数	18,824 世帯	18,846 世帯	22 世帯	0.12%

【考察】

世帯数はわずかに増加しましたが、人口は減少しており「世帯規模の縮小」が進行していると言えます。この世帯規模の縮小は、小規模事業者にとって、商品やサービスに対する需要規模の変化をもたらす可能性があります。

岡山市東区瀬戸地区の人口動態に基づく地域経済動向調査

1. 人口動態の現状

区分	令和 5 年	令和 6 年	増減	前年比
世帯数	7,299 世帯	7,255 世帯	▲44 世帯	99.4%
人口合計	15,234 人	15,102 人	▲132 人	99.1%
男子	7,280 人	7,229 人	▲51 人	99.3%
女子	7,954 人	7,873 人	▲81 人	99%

2. まとめ（小規模事業者への影響）

人口減少は、小規模事業者の経営において影響度が高い外部要因です。
経営環境の変化に対応することが、小規模事業者の持続的な発展には必要不可欠だと考えます。

●売上減少

人口減少は直接的に消費者の減少につながり売上減少につながります。
人口減少が著しい地区に店舗を構える事業者は早急な対策が必要です。

●労働力不足

人口減少は労働力不足を招き、小規模事業者における人材確保が困難になります。

●需要の変化

世帯規模の縮小は、食料品や日用品などの需要減少につながる可能性があります。
また、高齢化が進む地域では、高齢者向けサービスへの需要が高まる可能性があります。

赤磐市の交流人口を活用した中小企業の需要動向調査

1. 赤磐市観光入込客数推移(令和5年と令和6年比較)

区分	令和5年	令和6年	増減数
観光入込客数	271,463人	245,212人	▲26,251人

2. 観光入込客数の動向

・観光客の多い観光地

- おかやまフォレストパークドイツの森(14.7万人) ※赤磐市の69.84%を占めている
- 熊山英国庭園(3.2万人)
- 竜天オートキャンプ場(6,581人)

・観光施設ごとの傾向

- 令和5年度と比較し、多くの施設で観光客数が減少
- 竜天オートキャンプ場のグランピング利用者数も減少(883人 → 803人)
- サッポロビール岡山ワイナリー がR6.3月15日閉鎖された影響が大きい。
令和5年は11,270人であったが、令和6年2,205人となり、9065人減少(減少数の35%を占めている)

・特産品販売の変化

- 「稚媛の里」の商品購入者数

	令和5年	令和6年	前年比
購入者数	54,214人	52,225人	96%

- 7月と8月は桃とぶどうの需要が高く、売上も多くなっています。
- 売上が前年を上回った月は2月、5月、8月でした。

3. まとめ

令和6年が令和5年と比較して観光客が減少している事実は想定外でした。

その主な原因としては、令和6年3月15日をもって「サッポロビール岡山ワイナリー」が閉鎖されることがあげられます。

また、市内観光客の7割が「ドイツの森」に集中しており、観光客をターゲットとしている小規模事業者は、この現状を踏まえた対策が必要です。